

俳句

大津俳句会

四阿に憩うてをればほととぎす

井芹眞一郎

若き日の香水にふとすれ違ふ

秋山 恵

退院のめどもたたずに朴の花

市原 初女

月下美人咲ゐて一夜を共にせし

大塚喜久子

草を取る時間無心に過ぎてゆく

佐賀 久子

雨の中いまどのあたり七変化

松尾 昭雅

今生の終の住処の草を引く

岡崎 浩子

未草池の容に広これり

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

大和路に今も鳴くや 時鳥

志賀 孝子

青葉風このごろ座席譲られる

田上 公代

青田風さわさわ農家レストラン

木庭 杏子

忽然と消えた平穩 黒揚羽

上杉 波

合歡の花てもちぶさたな休刊日

矢嶋 道子

吾子帰る轍の横に金盞花きんせんか

水野 春子

菱の花今日の無事あり希望あり

梅木トキエ

桜桃忌花壇に赤い百合一本

塚本 洋子

向日葵の数だけ光る涙かな

榮田しのぶ

短歌

大津短歌会

うつし世の母のいませぬ秋の川穩しき流
れに魚の住む見ゆ

吉永 恵子

ぎしぎしと押しくらまんじゅう冷蔵庫海
老にかまぼこ黒豆洋かん

坂本 杲子

荒れ寺は弘法大師のゆかりなり瓦苔むし
壁はがれ居り

鞍 岳志

物多し整理整頓成すがとて僻ひがな一日今日
も暮れゆく

管野 静

盛りあがる木々の若葉は陽光にあざあざ
映える北向山に

豊岡ミツル

早々に梅雨明けされて気忙しいや向日葵の
びよ早く花咲け

小平 善行